

網野銚子山古墳周辺範囲確認調査現地説明会資料

2009. 1 京丹後市教育委員会文化財保護課

1、遺跡名称	網野銚子山古墳（三宅遺跡）
2、所在地	京丹後市網野町網野小字宮家
3、調査主体	京丹後市教育委員会
4、調査期間	現地調査期間：平成20年8月5日～平成21年1月末日（予定）
5、調査面積	約260㎡

古墳の概要

- ・古墳時代前期末～中期初頭（4世紀末～5世紀初）に築造された大型前方後円墳。築造当時の全長は198mを測り、日本海沿岸に分布する古墳の中でも最も大きいものの一つ。
- ・墳丘は三段に築成され、墳丘斜面には葺石^{ふきいし}が葺かれています。
- ・陪塚（ばいちょう：ほぼ同じ時期、計画的に周辺に築造されたと見られる小型の古墳）が2基（小銚子古墳・寛平法王陵古墳^{かんびょうほうおうりょう}）存在。
- ・大正11年3月8日に国指定史跡に指定。
- ・昭和60・61年、範囲確認調査（三宅遺跡第2次・3次調査）実施。墳丘基底部の葺石^{ふきいし}とテラス上の埴輪列^{はにわ}が見つかり、墳丘テラスに巡る円筒埴輪はすべて口がすぼまった形である丹後型円筒埴輪である可能性が高いこと、墳丘の少なくとも南東半分には濠がめぐっていたことがわかっていました。

調査目的

今回の調査は昨年の調査に続き、古墳周辺の地形が元々どうなっていて、古墳を作るときにどのように改変されていたかを調べるため、6ヶ所の調査をおこないました。具体的には、①古墳北側（海側）の墳丘端の確認について、②銚子山・小銚子古墳間の部分に何か関連施設があるかについて、③銚子山古墳の外堤施設（二重環濠など）があるかないか、調査を実施しました。

調査成果の概要

①古墳北側（海側）の墳丘端の確認について

第3・4・5トレンチで調査をおこないました。特に第4トレンチでは、基底石こそ抜き取られていましたが墳丘裾の状況、埴輪列・葺石が良好に残っており、築造時の地形を推定する手がかりを得ることができました。墳丘裾の地山面を観察したところ、墳丘裾の北側に周濠跡はなく、ほぼ水平に削り放していました。海側から見た時に墳丘を際立たせるため施された造作と考えられます。

また、3・4トレンチではテラス面から細かい小礫が見つかり、テラスに礫を敷いていた可能性が考えられます。また、埴輪列の周



4 トレンチ葺石

りが特に厚く堆積しており、埴輪を据付けるため埴輪周辺には厚く盛ったことも考えられます。また4トレンチの葺石は裏込め石が置かれていましたが、葺かれていた可能性も考えられます。

② 銚子山・小銚子古墳間の部分の関連施設の有無について

第2トレンチ・第6トレンチで調査をおこないました。第2トレンチでは、耕作土・整地層の下層に厚い黒ボク土層を確認しました。黒ボク土層からは、弥生土器および土師器細片が出土しました。また、地山層は銚子山古墳に向かい緩やかな傾斜であがり、周壕外縁に高まりがあったことがわかりました。6番トレンチでは、耕作土直下から地山層が検出され、黒ボク土層は無い状況でした。

結果、2トレンチ部分では旧地形は窪地状で、第6トレンチ部分では元々高かったところを削り古墳の周辺部分としているものと推測されます。古墳築造前の原地形を推定する手がかりを得ることができました。



4トレンチ埴輪検出状況（上層）



3トレンチ葺石



2トレンチ黒ボク層検出状況

③ 銚子山古墳の外堤施設の有無について

第1トレンチで調査をおこないました。耕作土直下から地山層が続いている状態で、地山を掘り込んだ幅4mの掘り込みを検出しましたが、ほ場整備造成に伴い掘削されたものと思われ、二重環濠などはこの部分では確認できませんでした。

まとめ

今回の調査成果については、大きく次のとおりです。

- ・第4トレンチでは良好な葺石、埴輪列を検出しました。今回の場所では厚く裏込め石があり、海側と陸側で葺石の葺き方などが異なる様相であった可能性があります。今後類例調査を実施し検討する予定です。
- ・海側に周壕はなく、水平に削り周辺を整えていました。海からの視点を意識した造作と思われます。
- ・墳丘東側の農道の外側部分では、古墳周辺の関連施設などを確認することはできませんでした。
- ・小銚子古墳周辺については、旧地形を示す手がかりを得ました。元々銚子山古墳から小銚子古墳にかけ地形的な高まりがあり、それを切り崩して銚子山古墳及び周壕が整形されたと思われます。